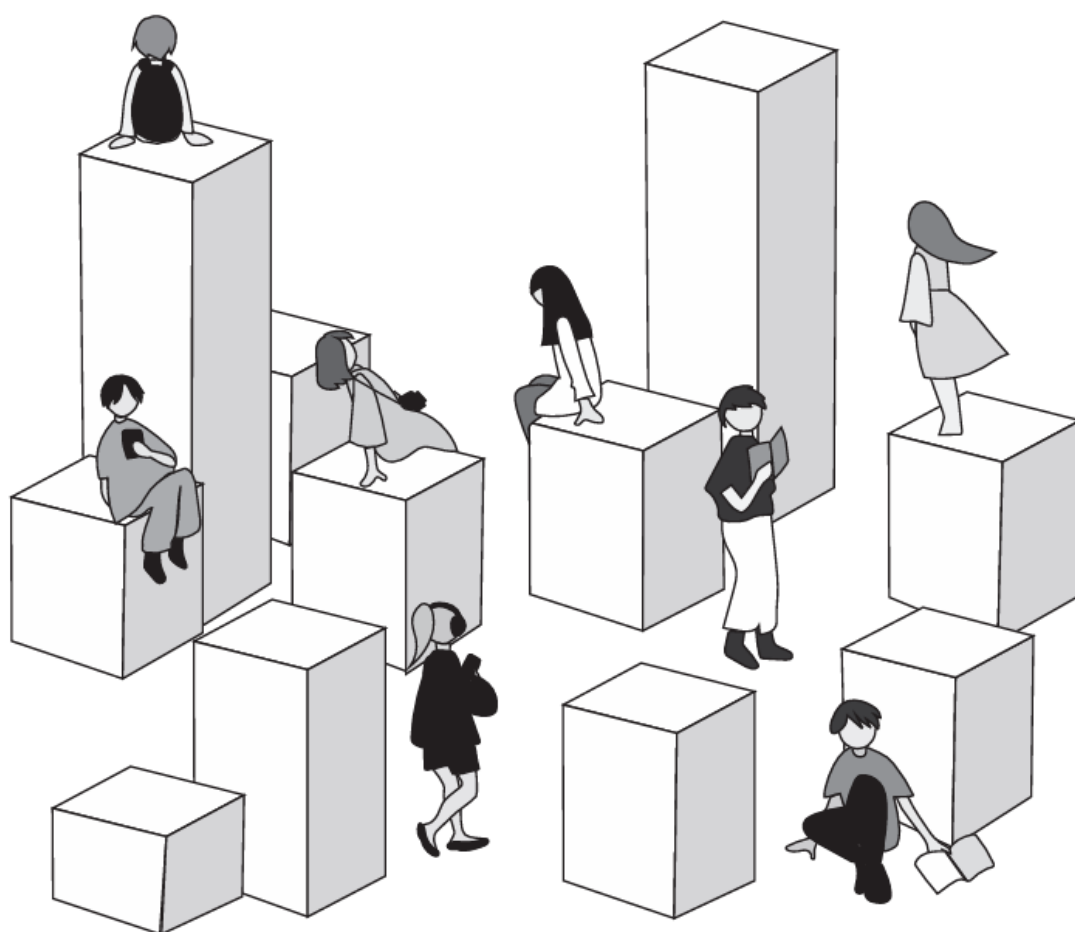


文化構想学部 論系進級パンフレット 2026



早稲田大学生生活協同組合
進級パンフレット編集委員会

はじめに

論系進級の希望届提出の時期が迫ってまいりました。この時期の1年生のみなさんは、論系選択についていろいろと悩み、考えていることでしょう。

この論系進級パンフレットは、1年生が進級するにあたり少しでも不安を解消し、お役に立てればと作成されたものです。このパンフレットが、みなさんが各論系の魅力や特徴について知るきっかけとなり、自分の進む論系を決める上での参考になれば幸いです。

たくさん悩んで、自分が本当にやりたいことを見つけてください。このパンフレットを手にした方が、希望の論系に進めるよう願っております。

また、原稿作成に際しご協力いただいた各論系の先生方、ならびに文学学術院事務所の皆様、ありがとうございました。

早稲田大学生生活協同組合
進級パンフレット編集委員会

発行にあたって

- ◆ このパンフレットは、早稲田大学生生活協同組合が編集して発行しておりますが、各コース紹介ページにつきましては、主任の先生方宛に「アンケート」という形でご協力をお願いし、回答いただいたものをそのまま掲載させていただいております。
- ◆ 進級状況などの情報に関しましては、文学学術院事務所のご協力で掲載させていただきました。ただし、編集時点での情報となりますので、最新の情報や詳細につきましては、ホームページや学部の掲示板、オリエンテーションなどで必ずご確認ください。

このパンフレットに関して何かお気づきの点がございましたら、下記までお知らせください。

早稲田大学生生活協同組合 進級パンフレット編集委員会 事務局
Waseda-soshiki@univ.coop

目 次

- ◆ はじめに
- ◆ 目 次
- ◆ 論系進級ガイダンス、進級状況
- ◆ 教員より_論系紹介ページ
 - ① 多元文化論系
 - ② 複合文化論系
 - ③ 表象・メディア論系
 - ④ 文芸・ジャーナリズム論系
 - ⑤ 現代人間論系
 - ⑥ 社会構築論系



詳細はホームページ

<https://www.waseda.jp/flas/cms/students/grades/>
学部掲示板、オリエンテーション等でご確認ください

論系進級ガイダンス、進級状況

- ◆ 進級ガイダンス・進級手続きスケジュールについて
 学部 WEB サイト＞在学生の方へ＞成績・進級・卒業
<https://www.waseda.jp/flas/cms/students/grades/>

◆ 論系別進級状況(2026 年度)

文化構想学部		
論系	定員	進級者数合計
多元文化論系	111※	97※
複合文化論系	144	144
表象・メディア論系	144	145
文芸・ジャーナリズム論系	144	144
現代人間論系	144	144
社会構築論系	144	145
合計	831	819
※JCulP（国際日本文化論プログラム）を除く		

多元文化論系

1. 論系の概要を教えてください。

世界各地の地域文化が異なる地域とつながり、相互に刺激を与えあうことで、どのように新しいものを創りだしてきたのか。多元文化論系は、そうした異なる地域との交流のもとで重層的に形成されてきた文化創造の「現場」を、時に同時代を観察し、時に歴史に分け入り、立体的に捉えることを目指しています。

多元文化論系は「英語圏文化」「ヨーロッパ文化」「アジア文化」「中東・イスラーム文化」「国際日本文化論(JCuIP)」の5つのプログラムから構成され、世界のおもな地域をほぼカバーしています。「日本文化」の「現場」に飛び込んで「中国文化」との関わりを見つめ、「アメリカ文化」の「現場」で「日本文化」と出会う。無数にあるそうした地域の「現場」から、どういう世界の姿が見えてくるのか。地域文化の「現場」からそのことを一緒に考えていきます。

2. どのような研究ができるか教えてください。

古代から現代まで、世界の各地域で創られ、築かれてきた文化のすべてが研究の対象となります。2019 年度卒業生のゼミ論題目にあるキーワードを使うと、「シリア内戦」から「シン・ゴジラ」まで、何でもです。学生一人ひとりの興味や関心を、世界各地域の文化を広く学ぶことができる「カリキュラム」と地域文化研究のプロである「教員」が支えます。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

地域文化やグローバルな文化現象を研究する論系や文学部のコースは他にもありますが、世界のほぼすべての広範な地域、および古代から現代までの長い歴史をカバーする教員がそろっている点で、多元文化論系は最も充実しています。

- 2017 年度から英語で日本文化を学ぶ「国際日本文化論プログラム(JCuIP)」が加わりました。JCuiP は入学時に別枠入試を経て所属する学生が決まりますが、JCuiP 設置の科目は多元文化論系の学生は誰でも履修できます。他にも英語圏文化プログラム設置の一部の科目にも英語で授業を行うものがあります。英語をしっかりと身につけたい、留学に興味がある、将来は海外で働きたいという学生にとっては、「プチ留学」にチャレンジできる機会になるでしょう。
- 英語以外にも、ヨーロッパやアジア、中東の言語に堪能な教員が揃っています。英語圏に限らず、留学を考えている学生に対して、論系として積極的にフォローを行っています。実際に毎年、多くの学生が世界各地に留学しています。
- 各プログラムやゼミの垣根を越えて、相互に異なる視点をぶつけあう交流の場として、多元文化学会という場で複数のゼミが合同で研究発表会を行っています。この研究発表会は毎年開催しており、各ゼミは2年に1回発表の機会があります。ゼミごとに発表の内容は異なり、授業で議論した成果を全員でまとめるゼミ、課外調査や留学体験を報告するゼミ、代表者がゼミ論構想を発表するゼミ等、多元文化論系の学びの多様性が見渡せる場になっています。学会が発行する『多元文化』という雑誌にも発表要旨が掲載されています。
- 日本国際文化学会が認定する「インターカルチュラル・コーディネーター(ICO: 文化交流創成コーディネーター)」という資格制度に、多元文化論系も参加しています。地域と地域、文化と文化、地域と世界の間につながりをつけ、新たな文化の交流や創成を担う人材の育成を促し、資格を認定するというものです。多元文化論系では、異文化交流を実践する学生を応援しています。制度について、詳しくは論系の web サイトをご覧ください。

4. 演習やゼミで何が学べるのか教えてください。

演習については、世界各地の歴史や文化を学ぶ多彩な科目が用意されています。以下に例として各プログラムの演習を2つずつ挙げます。詳細は講義要項等で確認してください。

- 英語圏の言語政策／英語圏の映像文化／ヨーロッパとアジアの接触／ヨーロッパの諸問題／東アジアの地域文化交流／東アジアの言葉と書物／イスラーム社会論／地中海・イスラーム世界／Storytelling and Media／Contemporary Japanese Fiction in English Translation
- ゼミは JCulP の 4 ゼミを含めると、以下の 17 ゼミが設置されています。論系の web サイトでは、現役のゼミ生や卒業生が学生目線でゼミを紹介しているので、ぜひご覧ください。
- 異文化受容論／現代中国文化論／東アジアの生命観と倫理／日本の思想と文化／日本文化史／漢字・漢文文化／古典中国／地中海文化論／中東・イスラーム文化論／ユーラシア文化論／ヨーロッパ文化論／イギリス・アイルランド・英連邦諸国／グローバリゼーション・文化・英語教育／アメリカ文化論
- 【JCulP】Seminar on Global Japanese Culture and Media I, II, III, IV

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

特別な予備知識や語学力が必須というわけではありません。ただし、JCulP の科目や英語圏文化プログラムの一部の科目は英語で授業が行われます。また地域文化を研究する上でその地域の言語を習得することが望ましいので、ぜひ外国語に積極的に取り組んでほしいと考えています。

日本語以外の外国語を習得することによって、別の視点を手に入れ、自分の視野を広げていくことができます。それは日本や日本文化を考える上でもきっと役立つでしょう。何よりみなさんが将来活躍する可能性を大きく広げてくれるはずです。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えてください。

卒業生の進路はメディア、銀行、通信、製造、建設、サービス、教員、公務員等、非常に多岐にわたります。大学院等へ進学する学生も少なくありません。今年度の在学生の就職内定状況も順調です。2021 年度卒業生のおもな就職先は以下の通りです。卒業生の進路は論系の web サイトでも紹介しているので、あわせてご覧ください。

野村證券／モルガン・スタンレーMUFG証券／三井住友信託銀行／みずほフィナンシャルグループ／東京海上日動あんしん生命保険／住友商事／アマゾンジャパン／リクルート／富士フイルム／パルコ／キリングroup／防衛省専門職員／国家公務員総合職／早稲田大学他
大学院進学：早稲田大学／東京大学／海外の大学他

7. 推薦図書を各 2 ～ 10 冊程度ご紹介下さい。

①論系の特徴を掴むのにおすすめの本。

②論系の推薦図書。

「必修基礎演習テキスト 100」に推薦した本から入手しやすいものを 4 冊おすすめします。

- メルヴィン・ブラッグ著、三川基好訳『英語の冒険』（講談社、2008 年）
- 金文京『漢文と東アジア——訓読の文化圏』（岩波書店、2010 年）
- 本村凌二『多神教と一神教——古代地中海世界の宗教ドラマ』（岩波書店、2005 年）
- 末近浩太『イスラーム主義——もう一つの近代を構想する』（岩波書店、2018 年）

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介下さい。

世界各地域の文化や歴史、異文化交流、外国語の習得などに関心を持っている学生にとって、多元文化論系は最適です。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください。

ゼミ論・卒業研究のテーマは非常に多彩で、思想、宗教、文学、建築、アート等、世界各地域の社会や

文化について、一人ひとりの学生の興味の数だけさまざまな研究が行われています。題名リストは毎年、論系の web サイトと『多元文化』という雑誌で公開されています。また優秀論文については、『多元文化』に要旨も掲載されています。

10. 論系に関する問い合わせ先および web の紹介

進級やゼミ選択について、何かわからないことがありましたら、多元文化論系室の助手・助教までお問い合わせ下さい。希望に応じて、教員も対応いたします。

多元文化論系論系室 33 号館 9F 906 号室

ダイヤルイン: 03-5286-2979

アドレス: cdc.admin2007@gmail.com

web サイト: <https://waseda-tagenbunka.com>

複合文化論系

1. 論系の概要を教えてください。

私たちの論系は、社会・文化現象を総合的に研究する四つのプログラム（言語文化／人間文化／超域文化／感性文化）から成り立っています。その対象は衣食住に始まり、言語、文学、芸術、宗教、思想、哲学、美意識、メンタリティー、政治、経済、医療さらには国際関係をも内包しています。この論系の研究対象は、現実の人間であり、社会であり、またそれらが生み出した文化です。その具体的な様相を考察すると同時に、根本にある構造や考え方をその歴史的な源泉とともに解き明かすことを到達目標としています。しかしながらこういった外からの学問を探究する中で、内なる「自分」自身を発見することも私たちにとって重要な課題であるという認識を共有しています。

2. どのような研究ができるか教えてください。

各プログラムでは、地域や時代、既成の学問ジャンルの枠を超え、各文化圏間相互の関係分析や比較研究をおこなうことによって、人間文化の複合的な構造を根本的に解き明かすことを目指しています。

具体的には、各プログラム間の緊密な連携のもと、目で見、手で触れることのできるこの世界から不可視的な領域まで、自他の文化理解を促し、かつ実践的な場面での応用力を磨く授業が用意されています。

したがって、多様な科目群から自らプランを立てて積極的に履修することによって、広い視野と様々な方法（影響・対比研究、アーカイヴ操作、フィールドワーク、現地実地研修、ディベートやディスカッション、プレゼンテーション能力）を身につけることができるのも本論系の特徴です。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

地域や領域の横軸と文化の構造を読み解く縦軸上で、「文化とは何か」と絶えず問い直し、その価値を吟味するという意味で、とても立体的な学びの場が提供されているといえます。さらには、新しい価値観の可能性を読み取ることがここでの課題であるとすれば、とても創造的な場であるともいえます。

厳格・厳密であると同時に、しなやかであれ、これが私たちのモットーです。

4. 演習やゼミで何が学べるのか教えてください。

担当教員によってその具体的な方法は異なってきますが、一年間、基礎から応用まで、プレゼンテーションやディスカッション、さらにはフィールドワークや合宿・研修旅行を行っていきます。これらを通じて、自ら考え、自ら問題を発見し、自らそれを解決する能力を身につけていくこと、このことを共通の到達目標としています。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？ また必要になる学力や語学力を教えてください。

知識については、自分で習得した限りのものを確実にしておけばよいでしょう。むしろ、一瞬一瞬を大切に、集中力をもって何事にも対処する態度を身につける必要があります。

語学は食欲に！例えば、英語とフランス語を履修している人は、その語学をより一層研ぎ澄ますと同時に、さらにドイツ語やロシア語、あるいはギリシャ語やラテン語、あるいは中国語や朝鮮語……といったように目的に応じて勉強してみたいかでしょうか。そしてそれを続けることによって、すばらしい結果が待っているでしょう。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えてください。

時代を予測し困難を切り開く深い洞察力、広い視点を背景とするバランスの取れた知識、現実を分析し対処する実践力——本論系が目指すのは、三つの能力の陶冶です。本論系に学んだ者の進路としては、マスコミ・メディア・出版界、IT 関連業界、サービス関連業界、国際的な企業や組織、コンサルタント、

コーディネーター、教員、公務員、国際公務員、そして様々な分野の大学院などがあげられるでしょう。

7. 推薦図書を2、3冊程度ご紹介下さい。

読む本は、皆さん自身がいかなる者であるかによって価値あるものともなり、また無価値なものともなります。誰にでも通用するような普遍的な推薦図書があるという考え方は、ある種の幻想でしょう。

したがって、まず、幼いときから現在に至るまでの「自分」を見つめなおしてください。皆さんは、何をよりどころに生きていますか。そのような問いかけを絶えず繰り返すことによって、さまざまな機会に触れる文章が、そのたびごとに生き生きと感じられるようになるでしょう。

たとえば、ここに三日間同じアイスクリームを食べた自分がいたとします。その行為の意味するところは何かあったのでしょうか？ 自分の何かに気づくことから始めましょう。本は義務感をいだきつつ読むものではありません。

しかしながらそのうえで、自分の「知りたい」という渴望とともに、本論系の教員に尋ねてみてください。じっくりと話し合ってください。きっと適切な本を紹介してくれると思います。

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介下さい。

特にこのような学生が向いているということはありません。しかしあえていうならば、次のようなことでしょうか。生きているこの現場にあって、学ぶ限り人は変わっていきます。と同じに、学ぶ限り人は確固とした自分を獲得していきます。変わるものと変わらないこと、この二つを同時に合わせもっている人、そんな学生さんでしょうか。

もう一点挙げるとするならば、私たちの論系には、フィールドワークや研修等で外（国内・海外）へと出る機会のあるゼミがいくつもあります。その際の企画・立案や情報収集は、主体的に行うものです。その意味において、プロジェクトを構想・立案し、実行する能力を磨くための努力を惜しまない学生の皆さんにもぜひとも来てほしいと思っています。もちろん、学問一筋という学生さんも大歓迎です。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

複合文化論系には以下の教員が所属しています。ゼミ論の場合、担当教員の専門分野にある程度近いテーマで論文を執筆するというのもある一方で、論文のテーマが多様なゼミもあります。卒業研究のテーマも含めて、ゼミ論文・卒業研究題目一覧を参考にしてください。複合文化論系ウェブページの「論文題目」に各年度のゼミ論文・卒業研究題目一覧が掲載されています。

→ https://fukugo.kinsta.cloud/?page_id=217

文化構想学部ウェブページの「在学生の方へ>論系ゼミと卒業研究」に掲載されている「ゼミ要項」も参考にしてください。

→ https://www.waseda.jp/flas/cms/students/seminar_thesis/

教員	専門分野	ゼミ
【言語文化プログラム】		
加藤 大鶴	日本語学、日本語音韻史、日本語方言、ことばと社会	「ことばと歴史・ことばと地理」
酒井 智宏	ヨーロッパ言語学、言語哲学	「ことばの科学・ことばの哲学」
陣野 英則	日本古典文学、平安時代文学、物語文学	「ことばと文学・ことばと美意識」
【人間文化プログラム】		
國弘 暁子	文化人類学、宗教人類学、ジェンダー研究	「宗教への人類学的アプローチ」
寺崎 秀一郎	中南米考古学、文化資源学	「文化ツーリズム論」
松前 もゆる	文化人類学、移動・移住の人類学、仕事の人類学、ジェンダー、エスニシティ	「移動・移住の人類学」
箕曲 在弘	文化人類学、開発人類学、経済人類学	「環境と開発の人類学」
【超域文化プログラム】		
宮城 徳也	西洋古典学、ルネサンス研究、異文化受容研究	「文化変容論」
山田 真茂留	社会学、集合的アイデンティティ研究、	「集合的アイデンティティの諸相」

	現代社会論	
【感性文化プログラム】		
小沼 純一	音・音楽・音響、環境と音／サウンドスケープ	「音=音楽文化論」
高橋 利枝	メディア・コミュニケーション論、異文化コミュニケーション論	「メディア・コミュニケーション論」

10. 論系に関する問い合わせ先および web の紹介

複合文化論系ウェブページ：<https://fukugo.w.waseda.jp>

X (旧 Twitter)：<https://x.com/fukugowaseda>

Instagram：https://www.instagram.com/waseda_fukugo?utm_source=ig_web_button_share_sheet&igsh=ZDNlZDc0MzIxNw==

メールアドレス：fukugo.waseda@gmail.com

※開室日程・時間の最新情報は上記ウェブページに掲載されていますので、
論系室をご訪問の際は必ず確認をお願い致します。
メールアドレスへのお問い合わせは随時受け付けております。



表象・メディア論系

1. 論系の概要を教えてください。

表象・メディア論系では、古典芸術から現代のデジタル表現やサブカルチャーまで、多種多様な人間の芸術文化活動を「メディア」「身体」「イメージ」の3つの切り口から分析します。従来の学問的枠組みを超え、文化を政治・経済・思想の問題やメディア・テクノロジーの進化、身体感覚の変容や氾濫するイメージなどと結びつけて捉えなおすことで、新たな地平を切り開く人材を育成することを目指しています。表象・メディア論系の教員はそれぞれに個性的ですが、三つのプログラムは決してばらばらではなく、相互に影響を与え合いながら知のネットワークを構成していることもこの論系の大きな特徴です。表象・メディア論系の学生は、その網の目のなかを自らの知的好奇心にしたがって探検することになるでしょう。

2. どのような研究ができるか教えてください。

表象・メディア論系では、文学、美術、演劇、映画などの伝統的な芸術分野はもちろんのこと、従来の学問領域の範囲内におさめにくいコンテンポラリー・アート、テレビ、写真、パフォーマンス・アーツ、音楽、デジタル表現、アニメ、マンガ、ゲーム、人形、広告、都市など、さまざまな表象文化やそれに関わる思想・哲学を対象として、サブカルチャー、テクノロジー、戦争、祝祭、オカルト、クィアなど多彩な視点から学術的に分析します。

一例を挙げましょう。たとえばベケットの『クワッド』というテレビ作品は、四人の演技者がロボットダンスのように正方形の上を正確に歩行するという奇妙な作品です。この作品は、テレビというメディアの特性を追求した作品としてメディア論的視点から論じることできますが、CGのようにメカニク的な身体運動に目を向けてみれば現代のサイボーグ論と通底するものがあります。と同時に、実は日本の伝統芸能である能の影響も指摘されているのです（能役者がこれを実験的に演じたこともあります）。また、イメージ論的に見れば、その動きのパターンはマンダラのような図像を描いていることに気づくでしょう。この作品は、精神分析やオカルティズムの研究対象にもされてきましたし、ドゥルーズなど現代思想家にも論じられてきました。このような広がりを持つ作品を従来の細分化された研究分野のどれか一つに押し込めることには無理があります。しかし、これを表象・メディアの「メディア」「身体」「イメージ」という三つのプログラムからなるネットワークのなかに置いてみると、作品が本来にもっている多様性や多義性を損なうことなく、広い視野から考察することができるのです。表象・メディア論系はそのような、広領域にまたがる文化的ひろがりをもった論系です。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

個性豊かな教員たちが、各々の細分化された専門領域に閉じこもることなく、緊密に連携を取り合いながら、はつらつとした指導をおこなっていることが大きな特徴です。また、たとえば文学部の演劇・映像コースと比較するならば、表象・メディア論系では伝統的な専門領域研究の枠にとらわれず、劇場や映画館をひとつのメディアととらえてメディア論的な視点から考えたり、デジタル時代における身体のありように着目して身体論的な視点からとらえたり、さまざまなイメージが交錯する磁場ととらえてイメージ論的な視点から分析するなど、広い視野を構えて考察する指導がなされていることも特徴です。し、文学部美術史コースと比較するなら、「美術」に限定されないもろもろのイメージ群（フィギュア、人形、漫画、ファッション、広告イメージ、建築等々）をもヴィジュアル・アートの範疇におさめながら、積極的に考察対象としていこうとする姿勢がわれわれの論系には顕著であるように思われます。

4. 演習やゼミで何が学べるのか教えてください。

2027年度は、メディア思想（藤本一勇）、幻影論（岡室美奈子）、身体表象論（坂内 太）、身体行為論（細馬宏道）、身体表現論（中島那奈子）、人工身体論（菊地浩平）、視覚イメージ論（関直子）、イメージ批評（石岡良治）、イメージ文化（ジェンダー&セクシュアリティ）ゼミ（溝口彰子）に加えて、新規着任の先生によるメディア表現研究と都市表象の合計11のゼミがあります。これらを通じて古典芸術から先端テクノロジーまで幅広く研究することができます。美術やテレビ、演劇、文学など芸術作品の分析を専門とするゼミもあれば、哲学・思想を研究するゼミもあります。また、メディア・アートや

アニメなどの実作者が集まるゼミもあります。ゼミに所属する代わりに卒業研究を選択することもできます。演習はメディア論、身体論、イメージ論の三つのプログラムに直結したものから、テレビ文化論、映画文化論、ゲームデザインの考現学、オカルト芸術論、ダンス論、人形文化論、ポピュラー音楽論、広告イメージ論まで、多彩な科目が設置されています。詳しくは、論系HPやシラバスをご覧ください。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

学問的な知識よりも、さまざまな芸術・文化・思想への興味と、それらを自分自身や日常をとりまく身近な問題とつなげて考える力をもった人に来てほしいと思っています。また、表象・メディアでは美術、メディア・アート、テレビ、映画、アニメなどさまざまなヴィジュアル・カルチャーを扱いますが、基本となるのはやはり本を読んで知識を吸収し、思考を発展・深化させる能力なので、1年生のうちから活字に慣れ親しんでおいてください。そしてまた感性を磨く習練や社会と自己との関わりについて思索し続ける努力も忘れずに……。語学については、英語のみならず、ほかにもフランス語、ドイツ語、ロシア語など、入りたいゼミの指導教員が専門とする分野に関連する語学を学んでおくことをお勧めします。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えてください。

メディアやマスコミに関連した業種を希望し、実際に就職する学生が少なくありません。もちろん、このような業種への就職のためには、学生自身の在学中からの努力が欠かせませんが。そのほか、学生自身の興味関心や研究テーマを反映し、幅広い業種に就職しています。一般の企業に就職する例も多く、就職率はきわめて良いといえます。主な就職実績は以下の通りです。

メディア・マスコミ・広告・企画・クリエイティブ（テレビ朝日、TBS テレビ、フジテレビ、読売テレビ、毎日放送、NHK、仙台放送、関西テレビ放送、スカパーJSAT、朝日新聞社、日本経済新聞社、博報堂、Google Japan、ミクシィ<mixi>、Yahoo、エムティーアイ、小学館集英社プロダクション、リクルートマーケティングパートナーズ、宝島社、マガジンハウス、丸善、双葉社、数研出版、凸版印刷、大日本印刷、共同印刷、東北新社、電通、電通テック、アックスオン、オリエンタルランド、エイベックス、松竹、EMI ミュージック・ジャパン、丹青社、ワタナベエンターテインメント、ソニーミュージック、NHK アート、博報堂クリエイティブ、グリー、Cygames、コーエーテクモゲームス、コロプラ、ソネットエンターテインメント、バンダイ、Production I.G.、面白法人カヤック、ロフトワークス他）

商社・IT・通信・運輸・交通・不動産関連（三菱商事、NTT 東日本、KDDI、伊藤忠テクノソリューションズ、NEC ソリューションイノベータ、日本オラクル、日本 HP、楽天、ソフトバンク、三井不動産レジデンシャル、野村不動産、大和ハウス工業、東急グループ、JTB 法人東京、全日本空輸、日本航空、JR 東日本、HIS、星野リゾート、小田急電鉄、ヤマト運輸、パレスホテル東京、伊藤忠商事、日本ファルコム、NEC、リコー、東芝、シャープ、キャノン、マツダ、トヨタ、国際石油開発帝石、東京ガス他）

金融・損保・保険関連（日本銀行、三菱東京 UFJ 銀行、りそな銀行、ゆうちょ銀行、みずほフィナンシャルグループ、ゴールドマン・サックス証券、八千代銀行、山形銀行、常陽銀行、北陸銀行、阿波銀行、第一生命、三井住友海上火災保険、東京海上火災保険、損保ジャパン日本興亜他）

ファッション・文具・流通・食品・外食関連（ファーストリテイリング<ユニクロ>、ワコール、カネボウ化粧品、資生堂、三菱鉛筆、キングジム、東急ハンズ、ニトリ、京王百貨店、三越伊勢丹、イオンリテール、ファミリーマート、ロッテ、武田薬品、サントリー食品、キリンビール、アサヒビール、日本マクドナルド本社、JT、昭和産業他）

進学（早稲田大学大学院〔文学研究科表象・メディア論コース等〕、東京大学大学院、京都大学大学院、一橋大学大学院、他）

その他（公務員、教員、学芸員、日本赤十字社など）

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①論系の特徴を掴むのにおすすめの本。

②論系の推薦図書。

- ・ マーシャル・マクルーハン著（栗原裕他訳）『メディア論——人間の拡張の諸相』（みすず書房、1987）
- ・ ヴァルター・ベンヤミン著（久保哲司訳）「複製技術時代の芸術作品」（ちくま学芸文庫『ベンヤミン・コレクション1／近代の意味』所収、1995）
- ・ ジョナサン・クレーリー著（遠藤知巳訳）『観察者の系譜——視覚空間の変容とモダニティ』（以文叢書、以文社、2005）
- ・ エルキ・フータモ著（太田純貴編訳）『メディア考古学』（NTT出版、2015）
- ・ レフ・マノヴィッチ著（堀潤之訳）『ニューメディアの言語』（みすず書房、2013）
- ・ リンダ・ハッチオン著（片渕悦久訳）『アダプテーションの理論』（京都：晃洋書房、2012）
- ・ 逸身喜一郎他編『古典について、冷静に考えてみました』（岩波書店、2016）
- ・ 何とか全集（どこの出版社の、古典、現代、日本、世界、文学、思想等々なんでもかまいません）を全部よむこと
- ・ 堀越英美著『女の子は本当にピンクが好きなのか』（Pヴァイン、2016）
- ・ 橋本治著『人はなぜ「美しい」がわかるのか』（ちくま新書、2002）
- ・ ジャック・デリダ著（西山雄二・郷原佳以・亀井大輔他訳）『獣と主権者（ジャック・デリダ講義録）』I, II（白水社2014、2016）
- ・ 片岡一竹著『疾風怒濤精神分析入門』（誠信書房、2017）
- ・ 石岡良治著『視覚文化「超」講義』（フィルムアート社、2014）
- ・ 細馬宏道、菊地浩平編著『ELAN入門』（ひつじ書房、2019）
- ・ 溝口彰子著『BL進化論 ボーイズラブが社会を動かす』（太田出版、2015）
- ・ 坂井妙子著『ウエディングドレスはなぜ白いのか』（勁草書房、1997）
- ・ 川口幸他編『展示の政治学』『ミュージアムの憂鬱』（水声社、2009、2020）

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介下さい。

日常の中にもさまざまな謎を見出し、それを解くことに喜びを感じる人、ぜひ来てください。たとえば携帯電話を自分の声や身体の拡張だと感じる人、携帯電話に保存した写真とフィルムで撮った写真は何か違うと思う人、LINE スタンプの面白さを学術的に研究してみたい人、「インスタ映え」とは何かを解明してみたい人、あなたは表象・メディア論系に向いています。

表象・メディア論は、伝統的な学問研究に立脚した、新しい研究領域です。一緒に開拓しようという意欲に溢れる学生を待っています。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

論系機関誌『XETT』に、毎年の「ゼミ論文・卒業研究題目一覧」が掲載されています。33号館8階の表象・メディア論系室の前のテーブルにバックナンバーが置いてありますので、ご自由にお持ち下さい。論系室・戸山図書館・中央図書館でも閲覧が可能です。『XETT』は表メの学生が企画から執筆・刊行まで主体的に制作している雑誌です。表メの学生の関心を知るのに最適な雑誌ですので、ぜひ紙面を覗いてみてください。

10. 論系に関する問い合わせ先およびwebの紹介

公式HP <http://www.hyosho-media.com>

公式ブログ（論系通信） <http://hyosyomedia.seesaa.net/>

公式ツイッター @hyosyomedia

問い合わせ先 contact@hyosho-media.com

表象・メディア論系室 33号館8階803室

※論系室で表象・メディア論系パンフレットを配布しています。論系の特徴やゼミ案内が掲載されています。

※大学院表象・メディア論コースに在籍する大学院生が、進級その他についての相談を受け付けています。授業期間中の昼休みを中心とした、週に4日ほど、相談時間が設定されています。詳細は論系室にお問い合わせください。

文芸・ジャーナリズム論系

1. 論系の概要を教えてください。

文学や文化現象をフェミニズムや世界文学といった視点のもとに領域横断的に学びます。文学部では、日本や諸外国の文学を対象に、その言語を用いて専門的に読むことを重視した学びが行われていると思いますが、文芸・ジャーナリズム論系では、翻訳も積極的に用いて、古今東西の文学作品や思想書に親しむことを大切にしています。ひとりひとりが作品とよりよい関係を結ぶための補助線となるような新旧の文学理論や文化理論の方法も学ぶことができます。

そうした学術的な知見をしっかりと習得することを前提に、創作や翻訳に挑戦してもらう演習も用意されています。

2. どのような研究ができるか教えてください。

日本や諸外国の文学について広く学ぶことができます。また、児童文学、エンタメ、詩歌、戯曲、批評・評論、エッセイなどのさまざまな文芸ジャンルを対象とする授業が用意されています。

フェミニズム批評、ポストコロニアル批評、文化批評など、幅広い領域を横断的に学ぶことができます。

さまざまな側面から言葉による自己表現を磨きたい方にもお勧めです。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

文化構想学部の表象・メディア論系とのちがいについてよく質問されます。表象・メディア論系では、美術・映画・演劇・メディアなどの表象文化を新しい学際的な視点・方法で研究することを目指していると思われますが、文芸・ジャーナリズム論系では、映像や身体表象よりは、言語を主要な表現手段とする分野を対象に、やはり新しい学際的な視点・方法を援用して研究することを目指しています。

また、それらの対象にアプローチする側が自身の言語をどのように磨くか、ということも、文芸・ジャーナリズム論系ではとても大切にしています。そのため、「みずから言葉で表現する」ことを具体的に体験できる演習を数多くそろえているところも特徴のひとつと言えます。

4. 演習やゼミで何が学べるのか教えてください。

「翻訳・批評」「文芸研究・批評」「文芸精読」「テキスト読解・批評」「世界文学」「編集・メディアと批評」「ノンフィクション」などのゼミが開設されています。それぞれのゼミでは、ゼミ論文の完成に向けて、ディスカッションや個別指導が行われています。

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？ また必要になる学力や語学力を教えてください。

現在読むことや書くことに慣れていなくても、やる気さえあればまったく問題ありません。進学してから、文学やその他の書物に親しみ、また創作や批評など文章を書くことが好きになれば、素晴らしいことではないでしょうか。

また特定の言語は指定しませんが、日本語を磨くためにも外国語はとても大切です。どの言語でもよいので、しっかり学んでください。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えてください。

主な就職先、内定先は以下の通りです。

朝日新聞、毎日新聞、共同通信、時事通信、読売新聞、上毛新聞、新潟日報、四国新聞、北海道新聞、講談社、集英社、新潮社、角川書店、高橋書店、KKベストセラーズ、博報堂、電通、NHK、東京テレビ、山陰放送、毎日コミュニケーションズ、NTTコミュニケーションズ、松竹、東宝、楽天、

ジュンク堂、日本出版販売、東京三菱UFJ銀行、みずほ銀行、群馬銀行、足利銀行、東京電力、NTT東日本、野村不動産、ソフトバンクテレコム株式会社、エポック社、東京セキスイハイム、中村屋、高島屋、丸井、日立製作所 などなど。

また、2011 年度より新設された修士課程「現代文芸コース」、大学院に進学し文学・文化の高度な研究を目指すことも可能です。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

ゼミや授業での使用・推薦図書を以下にご紹介します。

小倉孝誠編『世界文学へのいざない：危機の時代に何を、どう読む』新曜社、2020 年
デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か?』奥綾子他訳、国書刊行会、2011 年
マーヴィン・ミンスキー『心の社会』安西祐一郎訳、産業図書、1990 年
ユヴァル・ノア・ハラリ『ホモ・デウス』柴田裕之訳、河出書房新社、2019 年
レベッカ・ソルニット『わたしたちが沈黙させられるいくつかの問い』ハーン小路恭子訳、左右社、2021 年
カロリン・エムケ『憎しみに抗って一不純なものへの賛歌』浅井晶子訳、みすず書房、2018 年
柴田元幸『ぼくは翻訳についてこう考えています～柴田元幸の意見 100』アルク、2020 年
カズオ・イシグロ『日の名残り』土屋政雄訳、ハヤカワ epi 文庫、2001 年
水村美苗『増補 日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で』ちくま文庫、2015 年
岩井克人『貨幣論』ちくま学芸文庫、1998 年
蓮實重彦『反＝日本語論』ちくま学芸文庫、2009 年
須賀敦子編『須賀敦子が選んだ日本の名作 60 年代ミラノにて』、河出文庫、2020 年
マルグリット・ユルスナール『東方綺譚』、多田智満子訳、白水Uブックス、1984 年
山尾悠子『ラピスラズリ』ちくま文庫、2012 年
村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』講談社文庫、2009 年
内田百閒『東京日記』岩波書店、1992 年
パスカル・キニャール『音楽の憎しみ』水声社、2019 年
リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』片渕悦久・鴨川啓信・武田雅史訳、晃洋書房、2012 年
柳父章・水野的・長沼美香子編『日本の翻訳論』法政大学出版局、2010 年
池澤夏樹・穂村弘・小澤實選『近現代詩歌』〈池澤夏樹個人編集 日本文学全集 29〉河出書房新社、2016 年

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介下さい。

言葉・文化を大切にし、自分とは異なる他者の考えや生き方を尊重できる、細やかな感受性と大らかな寛容さを期待します。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

内外の作家論・作品論、ウェブ論、漫画論、ゲーム論、翻訳、創作（小説・詩・短歌・戯曲など）等々……文ジャのゼミ論、卒研のテーマはきわめて多岐にわたりますので、ここには、書き切れません。

10. 論系に関する問い合わせ先および web の紹介

文芸・ジャーナリズム論系室（33 号館 7 階） 03-3203-2589 bungeijournalism3238@gmail.com
文学学院の HP から論系案内を見ることができます。

現代人間論系

1. 論系の概要を教えてください。

現代人間論系は、文化構想学部の中なかでも「内容がわかりにくい」と感じる論系かもしれません。実際に、文化構想学部を目指す受験生や入学したばかりの学生の皆さんにとっては、その内容を直観的にイメージしにくいように思います。そのひとつの理由は、扱う問題の広さにあります。

現代人間論系では、皆さんが素朴に思い浮かべるような疑問を探究していくことの多い論系です。もしかしたらその疑問は、他の人にとっては非常に些細でどうでもいいと感じるような問題であるかもしれません。では、そのような些細に思えるような問題は、取り扱うに値しないことなのでしょうか。それは違います。そのような些細な問題の背後にこそ、歴史的に多くの研究者たちを悩ませてきた広大な謎が待ち受けていたり、人類に共通の大きな問題が待ち構えていたりするからです。

学問の入り口は、皆さんが生活する身近なところに存在します。現代人間論系で学ぶ内容は、皆さんが立つ身近なところからスタートしますが、そういうところにこそ、長年にわたって探究すべき問題が隠れているかもしれないのです。

現代人間論系は「ともに生きる」をモットーに掲げており、4つのプログラムと13のゼミから＜現代＞に生きる＜人間＞を多面的に探究しています。現代人間論系に属する教員は多岐にわたる専門領域を持っています。それぞれの教員は得意とする研究領域と研究方法を持っています。そこから横断的に学びつつ、各自の問題を探究していきましょう。論系の内容については現代人間論系ウェブサイト (<https://waseda-gendainingen.jp/>) もご覧ください。

2. どのような研究ができるか教えてください。

現代人間論系では、今という時代を生きる人間の様相を、さまざまな側面から研究していきます。おそらく、皆さんがいま日常生活を送るなかで素朴に抱くような疑問、何となく思い浮かべる疑問、ずっと考えていても答えが見つからないような疑問を探究することをイメージしてもらえば良いのではないのでしょうか。その疑問はさらに個々人で多様です。どうして人間関係で悩むのか、これまで自分がどのように育ってきたのか、また将来の子どもたちにとってよりよい社会をどのように作っていけば良いのか、どうして些細なことでいさかいが起きるのか、また、生きるとはどういうことなのか、死とどのように付き合っていけば良いのか。現代人間論系で扱う問題は、我々が生きることにまつわる問題そのものにかかわってきます。

こういった疑問にはすぐ簡単に答えが出るものではありません。生涯をかけて考え続けても、答えが出ないかもしれません。しかし、それで良いのです。現代人間論系は、宗教学、社会学、哲学、倫理学、心理学、教育学、社会福祉学という多様なアプローチから、これらの問題を考えていきます。これらのアプローチは、いわば考え続けるために実装し、探検に向かうときに必要になる「武器」であり「得意技」のようなものです。武器を装備し、スキルを磨き、一生涯の探検に出かけてください。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

現代人間論系では、皆さんがいま生きているなかで抱いている問題から研究がスタートします。たとえ明確に抱いている問題がなくても、「これがわかたらいいな」「このことが理解できたらすっきりするな」といった素朴な疑問でも構いません。しかしその何気ない疑問の裏には、非常に広大で深いさまざまな事象が絡み合っていて、誰かがその糸をほどくのを待っているのです。そのためには、その糸をほどく最適で可能なアプローチを探し出して適用していく必要があります。もしかしたら取り組もうと思う問題は、これまでに誰も問題視してこなかったことかもしれません。広く多くの学問領域を横断しながら、問題が先行する形で研究活動を進めていくのが、本論系の特徴です。

4. 演習やゼミで何が学べるのか教えてください。

現代人間論系では多様な演習やゼミが展開しています。演習では、特定のテーマに沿って資料を調べ、ディスカッションを行ったりプレゼンテーションをしたりするなかでその問題へのアプローチ方法や解決の手法を学んでいきます。

ゼミでは、演習で身につけた知識や経験をさらに発展させ、それぞれの問題へと取り組んでいきます。

演習やゼミについての具体的な内容は、シラバスや現代人間論系ウェブサイト、各教員のウェブサイトなどを参照してください。

- 「多様性を生きる人間」論プログラム
「多様性を生きる人間」論ゼミ（エスニシティと現代社会） 有賀
「多様性を生きる人間」論ゼミ（ディスアビリティと現代） 西倉
「多様性を生きる人間」論ゼミ（クィア・スタディーズ） 森山
- 「関係を生きる人間」論プログラム
「関係を生きる人間」論ゼミ（子ども・若者文化と居場所） 阿比留
「関係を生きる人間」論ゼミ（社会の変化と人間関係） 石田
「関係を生きる人間」論ゼミ（高齢社会の生と死） 久保田
「関係を生きる人間」論ゼミ（プラクティカル・エシックス） 御子柴
- 発達を生きる人間」論プログラム
「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心理） 小塩
「発達を生きる人間」論ゼミ（現代人の心の発達） 清水
- 「心身を生きる人間」論プログラム
「心身を生きる人間」論ゼミ（超越と人間） 小村
「心身を生きる人間」論ゼミ（科学技術と社会） 谷辺
「心身を生きる人間」論ゼミ（心身論） 宮田
「心身を生きる人間」論ゼミ（生命と人格） 村松

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

現代人間論系に進級する際に、何か特別な知識や語学力が必要だというわけではありません。しかし、自分自身や社会で起きていることについて、少し立ち止まってあらためて考えてみるような姿勢はあった方が良いでしょう。そして、その問題について調べ、書籍や論文を読んでみるような好奇心があるとなお良いでしょう。その好奇心に従って調べていくときには、自分自身が得意とする語学力やこれまで培ってきた知識を活用すれば良いと思います。

学生時代は、自分の好奇心に従って、自分自身の問題に取り組むことができる人生のなかでも貴重な時期です。何か疑問が浮かんだらそのままにするのではなく、またインターネットで調べるだけでなく、そこから踏み込んで数冊の書籍を手にとってみることで、さらに学内にいる専門家に尋ねてみるなど、自分自身の問題に向き合ってみてはどうでしょうか。

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できたら具体的に教えてください。

おそらく、進路について他の論系と大きく異なることはないでしょう。一般企業に就職をする学生もいますし、公務員を目指す学生も、大学院への進学を目指す学生も留学する学生もいます。どのような進路であっても、現代人間論系で課題に向き合った経験はどこかで役立つことでしょう。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①論系の特徴を掴むのにおすすめの本。②論系の推薦図書。

- 御子柴善之『自分で考える勇気——カント哲学入門』（岩波書店、2015年）
- 石田光規『孤立不安社会——つながりの格差、承認の追求、ぼっちの恐怖』（勁草書房、2018年）
- 小村優太『コーラン——構造・教義・伝承』（白水社、2009年）
- 村松聡ほか『教養としての生命倫理』（丸善出版、2016年）
- 宮田裕光ほか『心身論の挑戦——最先端の学際的アプローチから』（早稲田大学出版会、2024年）
- 大久保孝治『日常生活の探求——ライフスタイルの社会学』（左右社、2013年）
- 小塩真司『性格とは何か』（中央公論新社、2020年）
- 岡部耕典ほか『パーソナルアシスタンス——障害者権利条約時代の新・支援システムへ』（生活書

院, 2017 年)

- 清水由紀・林創『他者とかかわる心の発達心理学——子どもの社会性はどのように育つか』(金子書房, 2012 年)
- 阿比留久美『孤独と居場所の社会学』(大和書房, 2022 年)
- 森山至貴『LGBT を読みとく——クィア・スタディーズ入門』(筑摩書房, 2017 年)
- 久保田治助『日本における高齢者教育の構造と変遷』(風間書房, 2018 年)

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひご紹介下さい。

文化構想学部に入學して卒業することは、皆さんにとっては「楽勝」なことかもしれません。もしかしたら、授業を履修して単位を集め、ゼミに所属して形だけでも整えてゼミ論文を執筆すればよい、そのように考えているかもしれません。言い換えれば、皆さんには多くの自由な時間が与えられています。もちろん、その時間を何に使っても構いません。大学生の時期は、人生の先行きもよく見えず、心の底から打ち込めるような課題が見つかるとは限りませんので、何もせず時間だけが過ぎていく生活に陥ることも珍しいことではないでしょう。

その一方で、早稲田大学というのは皆さんが思っている以上に、知の集積という点で素晴らしい環境が整っている場所でもあります。図書館には日本でも有数の書籍や雑誌がそろい、スマートフォンを学内の無線 LAN につなぐだけで、個人ではとても契約できないようなデータベースにアクセスすることができ、貴重な資料や有料の論文を読むことができます。授業では世界を代表する研究者が皆さんの前で講義をし、質問をすれば答えてくれます。そして、早稲田大学生協では学生の皆さんのためにと厳選された書籍が販売されています。このような環境で手に入る情報は、検索サイトの検索窓にキーワードを打ち込んですぐに手に入るようなものではない、とても価値のあるものです。このような環境をどのように活かすかも、皆さん次第です。大学外ではとても手に入らないような情報が詰まっているのがこの大学なのですが、その情報に価値があるということを理解するためにも、やはり知識が必要です。

さて、もしも「自分が取り組むべき課題が見つからない」のであれば、それはどのような状態なのか、なぜそのようなことになるのか、他にも同じようなことを感じている学生がいるのか、そのようなことについて書かれた書籍や論文はないのか……と、調べていくこともできるのが、大学なのです。それは、検索窓に打ち込んで答えが出るようなものではありません。どのような問いを抱いたとしても、答えの方向に一步でも進んでいくために必要な情報が、大学のどこかにあるのです。そして現代人間論系は、そのような問題について探求していくこともできる論系です。「何も関心がない」という自分の状態こそ、探求すべき問いなのかもしれません。ぜひ、現代人間論系でその問いを深めていってください。

9. ゼミ論文・卒業研究のテーマを教えてください

<「多様性を生きる人間」論プログラム>

女性の自己実現に関する諸問題／家庭における男女平等と役割の変遷／多様なパートナーシップを目指して／性的嗜好の観点から考える『性の多様性の共存社会』／メディアが構築するジェンダー像／アニメ作品に表象されるジェンダー構造／美しい身体—痩せたい気持ちの正体—／自己表現の自由と、社会のジェンダー観念の関係性についての一考察—ファッション／障害者とともにつくる地域福祉—福祉教育と交流活動から考える—／子どもの道草—地域づくりとつながりの再構築／セクシュアルマイノリティの子どもたち—生きづらさの現状とその展望—／福祉へのまなざし—生活保護バッシングから見えてくるもの—／「障害の社会モデル」と内なる障壁—予測する不幸より振り返る幸福を—／「障害者文化」の共生に向けた可能性

<「関係を生きる人間」論プログラム>

コーポレート・ガバナンスの将来展望—企業不祥事をなくし、かつ企業競争力を高めるための今後の戦略提言—／「言語ゲーム」を論じることの難しさ／スポーツマンを哲学する—ありのままのスポーツマンであるためには—／人道的介入の道徳的意義はどこにあるか—正戦論の歴史から見た世界市民的アプローチの探求—／「ひとりぼっち」の意味的変容に関して—大学生へのアンケート調査の結果より—／地域コミュニティにおける主体性—多摩市民生委員を事例に—／聖地巡礼にみるファンと地域の関係性—鷺宮・鯖江・鴨川の事例研究から—

<「発達を生きる人間」論プログラム>

パラサイト化から自立した人生へー若者が希望に満ちた生活を送るためにー／日本の脱貧困化に向けて／恋愛における関係性の多様化ーなぜ、ひとは「純愛」に惹かれるのかー／現代人の友人関係ー「つながり」を再考するー／子どもの想像力と発達ー「想像上の友達」を通してー／家族風景から見る子どもの食卓事情／日本の子どもの自尊感情の低さと要因について／子どもの暴力行為ーなぜ子どもは「キレやすい」のかー／子どものパーソナリティ発達ー他者との関わりを通じてー／「良い子」と完全主義の関連についてー「良い子」のイメージとその構造に基づく「良い子」尺度の作成ー／炎上ツイートに対する感情評定と個人特性の関連ーパーソナリティと仮想的有能感に着目してー就職活動がキャリア成熟に及ぼす影響についてー文系学生の就職活動に注目してー

<「心身を生きる人間」論プログラム>

遺伝子操作による治療とエンハンスメントの区別／不妊治療における社会問題を考える／みずみずしい言葉が生まれる瞬間／道徳教育を捉え直す／国民皆保険制度再考／IT と監視ー収集される個人データと個人が結びつくー／自己の構造についてー木村敏の精神分裂病分析ー／承認という原理／現代における他者関係の性質についてー「目の前にいない他者」との関係性の検討ー／わたしが、わたしであることのゆえんを探る／共感において他者はいかにして理解されうるか／新しい時代のマインドフルネスと慈悲／孤独感・居場所感と心の健康／音楽聴取と心理状態の変化／ディズニーリゾートの集客戦略／生成 AI とのコミュニケーションによる心理的影響／ぬいぐるみの抱持による心理的効果／告白場面と注意場面における方言の影響／大学生の先延ばし行動とその改善方策

10. 論系に関する問い合わせ先および web の紹介

- 【現代人間論系ウェブサイト】 <https://waseda-gendainingen.jp/>
教員紹介，論系科目時間割，論系室階室時間，論系カンファレンス室予約状況等が掲載されている本論系のポータルサイトです。論系ブログにもここからアクセスできます。
- 【現代人間論系室】 33 号館 7 階 701 号室（論系室）、702 号室（論系カンファレンス室）
701 号室は論系の助手や助教の先生が常駐する部屋です。論系の学生や TA のみなさんが在室することも少なくありません。進級の相談など気軽に訪れてください。
702 号室は映画を上映できる設備も備えたカンファレンス室です。主にゼミや研究会，論系のイベントなどに使用していますが，予定が入っていないときは論系やゼミの書庫の閲覧，演習やゼミの打ち合わせ，さらには読書会に使うこともできます。
- 現代人間論系に少しでも興味をもった人は，気軽にお越しください。

【問い合わせ先】

現代人間論系室 human@list.waseda.jp

現代人間論系運営主任 宮田 裕光 miyata@waseda.jp

社会構築論系

1. 論系の概要を教えてください。

社会構築論系は、歴史と理論と実践の一体化を通じて新しい社会の創出を構想することをめざします。現代社会の分析に中心をおき、歴史的・文化的な接近によってその根源的なとらえ返しをはかりつつ、社会現象の矛盾や問題点をえぐり出し、それらを克服すべき社会構築の方途とそれを担いうる主体のあり方を構想することを主眼とします。

2. どのような研究ができるか教えてください。

社会構築論系は、以下にあげる3つのプログラムから成り立っています。

【国家—ダイナミクスプログラム】

人の集合体としての社会には様々なレベルのものが存在しますが、中でももっとも基本的な単位として認識しうるのが国家です。本プログラムは国家のかたちや役割を歴史的に広く見渡すとともに、国家を越える力学にも目を向けます。中心軸は国家の成り立ちの過程、国家を越える交流または対立、国家の拡張と成熟、そして国家の変動や変容を考えていくことにあります。

【コミュニティ—創造プログラム】

実生活の場としての社会には地域・都市がありますが、現代社会はウェブ上のコミュニティなどの実体のないものもあります。本プログラムは、主としてリアルなコミュニティを住民の自治という側面から検討し、その形成過程を歴史的にたどり現在のありようを検討するとともに、地域に残る文化遺産の保全と活用を考えていきます。同時にヴァーチャルなコミュニティ等、新たなコミュニティの問題についても検討します。

【グローバル社会—共生プログラム】

グローバル化のさらなる進行を踏まえた社会変化に対応し、本プログラムでは、共生という視点からグローバル社会を検討していきます。歴史的な視点から問うとともに、フィールド調査などもまじえながらグローバルな視野をもって現代社会を眺め分析し、人々が共に平和に生きていくための方法を考える能力を養うことが目的となります。その際に重要なキーワードとしては、平和、人権、環境、持続可能性、公正といった概念があります。

以上を通じて、歴史・文化に対する豊かな知識・認識を踏まえて現実のあり方と鋭く切り結び、社会の諸分野で能動的・実践的に活動することができる人格の養成をめざします。

3. 他学部、他の論系／コースと比較して、他にはない特徴を教えてください。

「社会構築論系」という名称は、早稲田大学文化構想学部にはありません。歴史学、社会学を軸にした学部編成は、他大学にも見ることができますが、論系という自由度の高い科目選択が可能な制度であるのは、われわれの論系の特徴かもしれません。

文学部のアジア史、日本史、西洋史、考古学、教育学、社会学等が、教員の専門から言うに対応しておりますが文化構想学部のそもそもの趣旨からわかるとおり、これら多くは19世紀に確立した枠を今も大事に持ち続けようとするのではなく、21世紀、とりわけみなさんが生きていくこの複雑な時代に対応していくための適応力、ポテンシャルを高めるための複合領域開拓をしている論系のひとつであるということを理解して欲しいと思います。

その中で、「社会」という抽象的な対象を主題にします。同様に「文化」の多元性や複合性、「メディアと表象」、「人間」という対象を主題にするのと同じレベルにある課題です。実際にフィールドで研究する領域、ゼミナールもあることが特徴でしょう。

4. 演習やゼミで何が学べるのか教えてください。

上述のように、国家―ダイナミクスプログラム、コミュニティ創造プログラム、グローバル社会―共生プログラムという3つのプログラムを軸に、演習とゼミが配置されています。

どのような演習とゼミがあり、どのように関係しているのかについては、文化構想学部の論系の紹介から演習・ゼミテーマをよく確認してください。また、社会構築論系履修モデルについても、詳細な説明がなされています。是非ご覧ください。

<http://www.waseda.jp/flas/cms/about/theoretical/schc/>

5. 進級に際して、どの程度の知識があることが望ましいでしょうか？また必要になる学力や語学力を教えてください。

文化構想学部、文学部の1年生時のカリキュラム、とりわけ基礎演習、基礎外国語、英語について十分勉強していれば、特殊な何かが必要ということはありません。むしろ、スケールメリットで存在している早稲田大学のいろいろなことを利用して、ユニークに楽しく学生をやっている人であれば、なおさらよいと言うぐらいでしょうか。興味関心のあるテーマに取り組んでみてください

6. 卒業後の進路について、どのような進路または方面（メディア、出版、銀行、公務員など）に進んでいる学生が多いか、現在在籍している学生はどのような方面を希望しているかを、できましたら具体的に教えてください。

社会構築論系の卒業生の就職先を見ると、一般企業、新聞や出版などのマスコミ分野、銀行、公務員など非常に多岐にわたっています。大学院に進学する人もいます。誰がどこへ行ったかよりも、あなたがこれから何をしようとするかが重要なことです。人の生き方は参考になることもありますが、自分の生き方は自分で決めるものです。

7. 推薦図書を各2～10冊程度ご紹介下さい。

①論系の特徴を掴むのにおすすめの本。

②論系の推薦図書。

社会構築論系は、前述したように非常に広範囲にわたる研究分野を取り扱っているため、2、3冊程度で、推薦図書をあげることは残念ながら不可能です。早稲田大学図書館のWINEで図書検索をして、社会構築論系の先生方の名前を入れて、出てきた本がすべて推薦図書です。

8. その他、どのような学生が向いているか、などございましたらぜひ紹介下さい。

今の世の中は、ガイダンスや案内書など、出来合いの道をたどって生きていく、味気のない世界となりつつあります。日本の社会はとくにそうです。しかし、そこからは新しいことは何ひとつ出てこないでしょうし、冒険、発見は少ないでしょう。この論系案内もそのひとつです。という点で、当たり障りのないことしか書いてありません。ここに書けないようなことを、いろいろ冒険してくれる学生さんの進級を希望しています。

9. 卒業研究・ゼミ論・卒論のテーマを教えてください

ゼミ論文・卒業研究のテーマは社会構築論系室に保管してあります。関心のある方は、論系室にお問い合わせください。

10. 論系に関する問い合わせ先。

【社会構築論系HP】 http://www.waseda.jp/socio_constr/

【問い合わせ先】 社会構築論系論系室 shakou.web@gmail.com

社会構築論系運営主任 樽本 英樹 hidekitarumoto@waseda.jp



詳細は、必ず、ホームページ

<https://www.waseda.jp/flas/cms/students/grades/>

学部掲示板、オリエンテーションなどで確認してください。

アンケートにご協力ください

次年度以降の編集の参考とさせていただくため、感想、ご意見をお寄せください。

(1年生に限らず、みなさま、ご協力ください)



早稲田大学生協戸山キャンパス(戸山カフェテリア・戸山店)の 情報はこちらから

取り扱い商品など



営業時間



2026 年 10 月発行

編集・発行

早稲田大学生生活協同組合